

氏名	おの みき 小野美喜
学位の種類	博士(看護学)
学位記番号	第3号
学位授与年月日	平成22年3月18日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当者 看護学研究科看護学専攻
学位論文名	臨床看護師が認識するよい看護師の特質に関する研究 Clinical Nurses' perceptions about the "Good nurse"
指導教員	教授：小西恵美子(主)
論文審査委員	主査：草間朋子教授、副主査：平野互准教授、副主査：吉村匠平准教授

論文内容の要旨

【目的】

本研究は、「日本の看護師が認識する『よい看護師』とは？」という看護倫理上の問いを看護体験から探究する。「よい看護師」とは、「善い」という道徳的視点で求められる要素や尊敬できる要素を含んだ看護師の倫理的理想像である(van Hoof 2006)。これは徳の倫理のアプローチであり、探究主眼は看護行為そのものではなく、行為主体である看護師にある。行為に先立ち、よい行為へと動機づけられる看護師その人に着目することは重要である。これまで看護行為に焦点をあてた原則の倫理が、看護倫理の主流となってきた。しかし、ケアを担う看護師が体験する倫理的問題には、原則の倫理では解決できないことが多分にあり、多様な倫理のアプローチを用いる必要性が指摘されている。本研究は、その倫理のアプローチの1つとして、これまで研究が少ない徳の倫理の探究を目的に、よい看護師の特質を明らかにする。

【研究1】

日本の看護の教科書に記述された「よい看護師」を歴史的に通覧するため、明治時代から2006年までの看護の教科書18冊を対象に文献的研究を行い、看護師の特質の記述内容を分析した。その結果、明治時代から続く記述内容は「人としての特質や人柄」と「知識と技術をもつ専門職としての特質」であった。1990年代から「人との関係性を尊重した特質」の記述が増え、「外観・身体的側面を示す特質」は減少していた。1980年代からの約10年は特質の記述が消失したが、今再び記述され、教科書には「徳の倫理」が生き続けていた。

【研究2】

臨床看護師が認識する「よい看護師」の記述を目的に、vanKaamの現象学的アプローチを用いて看護師20名に半構成的面接を行った。その結果、よい看護師は、【患者の安寧を願う心】(身体的側面だけではなく多次元の安寧が患者に起こることを願う看護師の心)、【人柄】(人間味と専門職者としての制御力を備えた個人の性質)、【よい実践を導く姿勢・能力】(よいケアが患者に確実に届くために看護師が仕事を遂行する態度：患者中心、臨床能力、チームワーク)の3つの特質で構成され、【よい看護師を育むもの】【よい実践を阻むもの】に影響を受けていた。看護師が経験したよい看護、悪い看護の場面認識から実践で求める看護師像を描いており、さらに何によって育ち、阻まれるかが明確になっていた。

【研究3】

研究1,2および先行研究の結果をもとに、よい看護師の特質を量的に検証した。臨床看護師600名(有効回答は463部)を対象に質問紙調査を実施し、平均や分散を確認し因子分析(主因子法、バリマックス回転)を行った。その結果、よい看護師は、1)「患者の安寧を願う心」をもつ、2)人間味と専門職業者としての人柄の両者を併せ持つ、3)よい行為を導く因子として『卓越性：学・技・智』『協働する力』『自律』『予測力』をもつ看護師であった(クロンバックの α 信頼性係数：0.7以上)。また『優れた看護モデル』『失敗体験とサポート』『褒められた体験』が理想の看護師像を形成する上で重要な因子となっていた。さらに『上下関係のプレッシャー』『看護能力の不足』『ケアからの心離れ』『患者との精神的距離』『時間的制約』などの5因子がよい実践を阻み、職場環境がよい実践に影響していることが示唆された。

【結論】

日本の臨床看護師が認識するよい看護師は、よき行為を行う動機となる患者の安寧を願う心をも

ち、人間味と専門職業者としての人柄を併せ持ち、卓越した学・技・智などに導かれた実践を行う人であった。結果は、稀少な看護の徳の倫理に関する資料としての実証的データを示しており、倫理的理想像であるよい看護師を育成し、よい実践につなげるための教育・職場環境への示唆を得た。

Abstract

OBJECTIVE: The objective of this study is to describe "the good nurse" whom any Japanese nurse should recognize. The good nurse is an ideal of nursing ethic having both a moral and respectful element. This is known as virtue ethics. Ethical principles have been the mainstream in nursing ethic until now. However, the nurse experiences ethical problems that cannot be resolved by principles alone. Therefore, it is suggested that various ethical approaches are necessary. This study explores virtue ethics describing the characteristics of a good nurse.

STUDY 1: Eighteen nursing textbooks dating from the Meiji era to 2006 were chosen for the analysis, and descriptions of nurse's characteristics were analyzed to determine a "good nurse". Descriptions that emphasize, "the characteristics of the person and his/her personality" and "the characteristics of nursing being a job that utilizes knowledge and technology", have been reiterated since the Meiji era. An emphasis on "the characteristics of respect for a relationship with another person" increased after 1990, and descriptions featuring "the appearance and physical characteristics of nurses" were de-emphasized. The descriptions of the characteristics disappeared in the 1980's, but reappeared recently. "Virtue ethics" continued appearing in textbooks.

STUDY 2: To describe clinical nurses' perceptions of being "a good nurse" a semi-structured interview was administered to 20 clinical nurses, using a phenomenological approach devised by van Kaam. The results show that the good nurse consisted of three elements: 1) a kind heart for patient's comfort, 2) a caring personality, 3) an ability to lead a good practice. Factors that affect fostering good nurses and that disrupt practicing good care also became clear.

STUDY 3: The characteristics of a good nurse were determined quantitatively using a questionnaire, where 463 out of 600 clinical nurses responded. A factor analysis (the main factor method, Varimax rotation) was done revealing that a good nurse possesses three elements. These are: "Desire that the patient be comfortable", "a good personality both as an individual and specialist", and "factors that contribute to good practice (teamwork, autonomy, and foresight)". Factors that disrupted good practice were "pressure from the boss", "limited nursing ability", "indifferent care", "lack of amiable relations with the patients" and "the time limitation for care" (Cronbach α coefficient: >0.7). The workplace environment was found to influence good practice.

CONCLUSION: This study provides evidence for a guideline of nursing ethics education in the workplace environment.

論文審査の結果の要旨

本研究は、看護倫理の一領域である「徳の倫理」の観点から、臨床看護師自身がどのように「よい看護師」像を認識しているかに焦点を当てた研究で、「日本の看護の教科書の記述にあらわれた『よい看護師』の文献的研究」(研究1)、「現在の臨床看護師が認識する『よい看護師』についての質的研究」(研究2)および「臨床看護師が認識する『よい看護師』についての量的研究」(研究3)の3研究により構成されたものである。3つの異なる方法論を用いて多面的な概念である「よい看護師」像という主題へアプローチした研究手法は妥当であり、博士論文として十分な水準に達しているものと判断される。本研究では、「よい看護師」像ならびに看護師自身の看護師像認識が、看護倫理において、行為規範である「よい行い」という倫理命題と並んで担う役割と意義についても吟味されており、今後の看護倫理に関する学術研究に有用な知見を提供したのみならず、望まれる「よい看護師」像を実証的に描出したことにより、看護臨床ならびに看護教育における実践において重要な示唆を与えたものであり、今後の研究と教育実践の両面における発展が大いに期待される。